

荻窪病院だより

患者さんの安全を守るための感染管理ラウンド 「気づき」を生んでスタッフの意識向上に 「今の行動、何がいけなかったか分かりますか？」

今回の荻窪病院だよりでは、入職半年の広報担当が感染管理ラウンドに同行し、実際の様子や感じたことをお伝えします。

当院は感染対策向上加算1を取得しており、院内の感染管理および周辺の医療機関と連携しながら地域の感染対策に努めています。様々な感染管理活動のひとつに院内ラウンドがあり、専門職としての厳しい視点で現場を回っています。

多職種で構成する 感染制御チーム (ICT)

メンバーは、感染管理認定看護師

※1をリーダーに、感染制御医師、

薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、

事務員などで構成。各専門分野の知

識を生かして、より幅広い視野で感

染の対策ができていくかチェック

します。週1回のラウンドは週ごと

に違う人員を配置し、1回3〜4人

で多くの目による確認をしています。病棟や集中治療室、外来や事務室などあらゆる場所を回りま

「感染管理ラウンドです〜！ いつも通り続けてください〜」

ラウンドはICTの声かけから

始まります。…しまった、感染管

理ラウンドの時間だった！とばか

りに周囲を片付け始める病棟スタ

ッフ。「注射針はなぜこんな奥のゴ

ミ箱に捨ててあるのでしょうか？

使用直後にカート内のゴミ箱に捨

てれば動線が短くてすみます」

「今の手袋の着脱をもう一度やっ

てみてください。何がいけなかつ

たか分かる方はいますか？」と、

すかさず質問や改善点を指摘され

ていました。

病棟スタッフの背筋が伸びる緊

張のラウンドがスタートします。



→ ICTが持ち場へ移動中、すれ違ったスタッフへ「手指衛生5つのタ
イミング※2を全て言ってみてく
ださい」と質問すると、スタッフは
スラスラ答えていました。



→ 目線を落とすことで見えてくる
病室の安全性。入院患者さんの尿道
留置カテーテルが適切に設置され
ているか確認しています。

荻窪病院は
地域医療に
貢献します

理念

患者さんへ安心で信頼される医療を提供します。
職員へやり甲斐のある仕事と豊かな生活の場を提供します。



基本方針

1. 急性期医療に全力で取り組み、地域社会に貢献します。
2. 個人の権利を尊重し、相互信頼に基づいた患者さん中心の医療を提供します。
3. 豊かな人間性と優れた技能を有する医療人の育成に努め、活力のある病院づくりをします。
4. 経営の健全化に努め、質の高い医療を地域に提供し続けます。



→ 感染性廃棄物専用のゴミ箱の容量が8割を超えていないかチェック。感染の恐れがあるゴミには種類別に定められた捨て方があり、ゴミ箱のフタには留め具がついていて閉まっているか必ず確認します。



→ ラウンドの最後にはICTがその場で病棟責任者に改善点を伝えます。病棟スタッフが「なぜいけないのか」「どうしていくべきか」を検討できるよう、ICTが相談に乗ります。この日は、病棟の看護師が持ち歩く医療用廃棄物のゴミ袋を以前より小さいものに交換することでこまめに捨てられるようになったという病棟発案の工夫を評価していました。

「ここにある私物を整理することで清掃が行き届きます。時には小姑目線でチェックしましょう」と中村感染管理認定看護師。



→ 続いてリハビリテーション室へ。

「ここにある私物を整理することで清掃が行き届きます。時には小姑目線でチェックしましょう」と中村感染管理認定看護師。



→ 「車椅子はこの位置が適切でしょ

か？ 車椅子と感染性廃棄物を捨てるゴミ箱の距離が近いと、捨てる時にスタッフや患者さんの体がゴミ箱に触れる危険がありますよね」と、様々なリスクを想定します。

病棟と同様にリハビリテーション室でも責任者に今後の改善方法などを伝え、この日のラウンドは1時間ほどで終了しました。

他にも確認する感染予防の項目は、薬剤開封後の使用期限はもちろん、シンクが洗われ乾燥しているか、スポンジは使用面を上にして乾燥させているかなど多岐に渡ります。細かく聞き取りや場面確認をしながらチェックしていました。

感染管理ラウンドから学ぶ 明日への医療に向けて

新米広報担当にはかなり厳しく感じたラウンド。他のスタッフの前で正確にルールを答えられないといけない、医療機器だけでなく私物の置き方までチェックされるんだ…と衝撃を受けましたが、その理由は中村感染管理認定看護師が教えてくれました。

「コロナのような新興感染症に立ち向かうには、病院スタッフの対応力が病院の要になります。そのため平時から基本的な感染対策が各部門でしっかり守られていることが重要です。ラウンドはコロナ前から行っており、コロナ前後でチェック項目の内容は変えていません。しかし、以前よりもこちらの指摘を柔軟に受け止め、対応する部署が増えたように感じます。コロナは病院スタッフ一人ひとりの感染管理に対する意識を変えたと感じています」。

ICTの指摘は病院スタッフの「気づき」を促し、この積み重ねが安全安心な医療につながるのだと改めて身が引き締まりました。

これからも当院は、スタッフ一人ひとりの感染対策への意識を向上していくことで、患者さんに寄り添ったチーム医療を提供してまいります。

※1 感染対策における高度な専門知識や実践力をもつと認定された看護師で、当院は2名配置。

※2 世界保健機関WHOが定めた、医療施設における医療関連感染を防ぐための手指衛生のタスキング。